

2018年7月29日(日)朝10:10
7月第5回同主日礼拝式説教

主の聖靈降臨節第11自由交歎会等
日本アライアンス庄原基督教會

説教題：新天新地の誕生

聖書:ヨハネの黙示録 21章1～8節

<口語訳>

新約聖書407頁

ヨハネの黙示録 21章1～8節

<新共同訳>

新約聖書477～478頁

ヨハネの黙示録 21章1～8節

<新改訳第3版>

新約聖書500頁

ヨヘネの黙示録21章1～8節

<塚本訳>

新約聖書820～821頁

主題:主イエス様から賜った聖靈の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」、神の御子イエス・キリスト様が、長老・使徒ヨハネに啓示の「神の国の奥義」、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代の事。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、御子の再臨信仰と愛、2章～3章は、7教会への手紙、4～5章は、羔羊礼拝、大讃美、6～13章は、聖徒、天使と龍、獸との戦い、14章は、小羊への大讃美、神無視の人々の裁きと信仰者への忍耐、15章は、金の怒りの鉢の神の裁き序曲、16章は、金の鉢の用意命令、獸の座の暗黒の裁き、ハルマゲドンでの龍と獸と主なる神との決戦、バビロン滅亡預言で、17章は、大淫婦と権力者の癒着、仔羊の勝利、18章は、バビロンの滅亡宣言と哀歌、19章は、大群衆讃美・長老らの礼拝、仔羊婚姻への花嫁の招き、神の大宴会、ハルマゲドンでの神の大勝利、20章は、サタンの千年間の幽閉、殉教者らの復活、千年間王座、サタンの滅亡、死と陰府の葬りの啓示です。

本論；

◆本日、ヨハネ黙示録第21章1～8節から主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録21章1節；ヨハネは、教会を花嫁として迎えるとの啓示を見ました。

◆21:1～8；塚本訳；新天新地

「1 また私は新しい天と新しい地とを見た。初めの天と初めの地とは消え去ったのである。最早海も無い。

2 また聖なる都新しいエルサレムが、夫のために飾った新婦のように身支度をして、天から、神(の御許)から降って来るのを私は見た。」と、ヨハネは、「新しい天と新しい地と花嫁の新エルサレム」を見ました。

⇒「初めの天と初めの地とは消え去ったのである。最早海も無い。」と、ヨハネは、見た新天新地を黙示録20章11節で、「地と天とはその御顔(の前)から逃げ、跡形も無くなつてしまつた。」とある取された天地を起こして描いて見せています。

⇒逃げた天地も、神が創造し、「それは、はなはだ良かった。」と神が評価されたものでした。

⇒さらに、「聖なる都新しいエルサレムが、夫のために飾った新婦のように身支度をして、天から、神(の御許)から降って来る」を見たと、証言しています。ヨハネは、2重の感動を表現しています。

⇒ヨハネは、ローマによって破壊されたエルサレムを連想しつつ、「夫のために飾った新婦のように身支度をした姿」に彼が牧会するキリストの教会を重ねています。

◆黙示録21章3～8節;ヨハネは、3つの聲を聞きました。

◇21:1～8;塚本訳;新天新地

「3 そして私は玉座から大きな声が(出てこう)言うのを聞いた、「視よ、人と共に神の幕屋がある！ 神が彼らと共に住み、彼らは神の民となり、神自ら彼らと共にいまして、

4 彼らの目から悉く涙拭い取り給うであろう。最早死もなく、悲嘆も叫喚も疼痛も最早無いであろう。初めの(天と地にあった)ものが(すっかり)消え去ったからである。」

5 すると玉座に坐し給う者が言い給うた、「視よ、われ凡てを新しくする」と。また言い

給う、「書け、この言は信すべくまた真実であるから。」

- 6 そして私に言い給うた、「(事は)成了。我はアルパまたオメガ、初また終である。渴く者には無代で生命の水の泉から我は飲ませるであろう。
- 7 勝利者はこの幸福を相続し、我は彼の神となり、彼はわが子となるであろう。
- 8 しかし臆病者、不信の者、嫌悪むべき者、(また)殺人者、淫行の者、魔術を行う者、(また)偶像礼拝者、凡ての虚偽者——彼らの運命は、火と硫黄の燃えている池に投げ込まれることである。これは第二の死、(すなわち最後の死)である。」

◇1つの声は、「3 視よ、人と共に神の幕屋がある！ 神が彼らと共に住み、彼らは神の民となり、神自ら彼らと共にいまして、4 彼らの目から悉く涙を拭い取り給うであろう。最早死もなく、悲嘆も叫喚も疼痛も最早無いであろう。初めの(天と地にあった)ものが(すっかり)消え去ったからである」です。
⇒「人と共に神の幕屋がある！」と、語ります。

- ⇒「神が彼らと共に住み、彼らは神の民となり、神自ら彼らと共にいまして、4 彼らの目から悉く涙を拭い取り給うであろう。最早死もなく、悲嘆も叫喚も疼痛も最早無いであろう。初めの(天と地にあった)ものが(すっかり)消え去ったからである」と、「人と共に神の幕屋がある！」ことの内容が示されます。
- ⇒「**神の幕屋**」は、旧約のモーセ以来、**神**が共におられるしで、新約においては、①主ご自身が人間となられたことを示し、②キリストの教会の姿を描いていました。
- ⇒「**彼らの目から悉く涙を拭い取り給う**であろう。最早死もなく、悲嘆も叫喚も疼痛も**最早無い**」と、**神の慰め**に満ちた扱いです。
- ◇2つめの声は、「『視よ、われ凡てを新しくする』と。また言い給う、『書け、この言は信すべくまた真実であるから。』」です。
- ⇒「**われ凡てを新しくする**」との宣言は、イエス・キリストを救い主信じる者は、新しく生まれるとの約束の実現を告げています。
- ⇒主イエス様が語られたことばを信じる人々に「**この言は信すべくまた真実である**」と。

◇3つめの声は、「**6 (事は)成了。我はアル
パまたオメガ、初また終である。渴く者には
無代で生命の水の泉から我は飲ませるで
ある。7 勝利者はこの幸福を相続し、我
は彼の神となり、彼はわが子となるであろう。**
**8 しかし臆病者、不信の者、嫌悪むべき者、
(また)殺人者、淫行の者、魔術を行う者、
(また)偶像礼拝者、凡ての虚偽者——彼ら
の運命は、火と硫黄の燃えている池に投げ
込まれることである。これは第二の死、
(すなわち最後の死)である。」神の国の
完成宣言と警告が示されています。**

⇒勝利者宣言があります。新天新地は、主の
予告・預言の成就です。「**渴く者には無代
で生命の水の泉から我は飲ませる**」と慰め
に満ちたことばが加えられています。

⇒と同時に、「**臆病者**」に代表される信仰者で
ありつつ、偽りの生活を繰り返すことへの
警告も告げられています。

⇒この幻を見たヨハネは、地上で生きていて、
警告を聞いているのです。

⇒私たちも、決別すべき生活を点検したい。

結論：

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」、神の御子イエス・キリスト様が、長老・使徒ヨハネに啓示の「神の国の奥義」、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代の事。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、御子の再臨信仰と愛、2章～3章は、7教会への手紙、4～5章は、羔羊礼拝、大讃美、6～13章は、聖徒、天使と龍、獸との戦い、14章は、小羊への大讃美、神無視の人々の裁きと信仰者への忍耐、15章は、金の怒りの鉢の神の裁き序曲、16章は、金の鉢の用意命令、獸の座の暗黒の裁き、ハルマゲドンでの龍と獸と主なる神との決戦、バビロン滅亡預言で、17章は、大淫婦と権力者の癒着、仔羊の勝利、18章は、バビロンの滅亡宣言と哀歌、19章は、大群衆讃美・長老らの礼拝、仔羊婚姻への花嫁の招き、神の大宴会、ハルマゲドンでの神の大勝利、20章は、サタンの千年間の幽閉、殉教者らの復活、千年間王座、サタンの滅亡、死と陰府の葬りの啓示です。

◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。

◇ヨハネ黙示録21章1～8節は、「新しい天と新しい地」が、実現・成就した姿をヨハネは、見て、その中で、3つの聲と1つの警告を聞きました。

⇒①人と共に神の幕屋がある！神が彼らと共に住み、彼らは神の民となり、神自ら彼らと共にいまして、4 彼らの目から悉く涙拭い取り給う、とその結果、最早死もなく、悲嘆も叫喚も疼痛も最早無いということ、②われ凡てを新しくする、それ故、この言は信ずべくまた真実であるから書き記すこと、③(事は)成了。我はアルパまたオメガ、初また終であると、渴く者には無代で生命の水の泉から我は飲ませる、勝利者はこの幸福を相続し、我は彼の神となり、彼はわが子となるという約束が伴っていました。

⇒1つの警告は、「臆病者、不信の者、嫌悪るべき者、(また)殺人者、淫行の者、魔術を行う(また)偶像礼拝者、凡ての虚偽者——彼らの運命は、火と硫黄の燃えている池に投げ込まれることである」ということです。

- ⇒「これは第二の死、(すなわち最後の死)である」という警告です。
- ⇒特に、警告の冒頭の「**臆病者**」をOS師は、**ヨハネ自身**がそうだったのではと想像を膨らませつつ、真摯に警告に聴くことを勧めます。
- ⇒それにもしても、**ヨハネ**にとって想像以上の光景を啓示され、苦難の中で大きな勇気を与えられたに違いありません。
- ⇒時代の流れからいうと、**ヨハネ**は黙示録の最初のところに立っている者です。
- ⇒サタンの誘惑は去り、獸のような政治経済の欺瞞が蔓延し、正しいことが正しいといえない偽評論家の罠に嵌り易い不信が渦巻く時代の真っただ中にいるのです。
- ⇒惡は必ず去り、特に汚染された地は消滅し、罪汚れのない、欺瞞が幅を利かせる時代が去る「**新しい天と新しい地**」を信仰を持って待ち望み、地味でも、主日、日々の朝ごとに**神を礼拝**して生きたいと願います。
- ⇒病気や災害は何時身に及ぶか分りません。それだからこそ、偽りのない**神のみことば**に心寄せ合って生かされたいと願います。